四県連携技術交流事業（陶磁器の交流）実施報告

水野加奈子*，北川幸治**，榊谷幹雄*

Report on Technical Exchange Project of Ceramic Ware Production Sites

by Kanako MIZUNO,Kouji KITAGAWA and Mikio SAKAKIYA

Once a year from fiscal 2001 to fiscal 2004, Shiga Prefecture, Gifu Prefecture, Fukui Prefecture and Mie Prefecture took turns in hosting various events aimed at promoting exchanges among production sites of ceramic ware in the four prefectures and to activate the sites. The events included exhibitions to promote the sites, lectures and meetings to promote exchanges as well as inspection tours of production sites.

Keywords: Production sites of ceramic ware, Exchanges

１．はじめに

『日本まんなか共和国』と称する四県（福井県・岐阜県・三重県・滋賀県）には，陶磁器の分野において日本を代表する産地が集中している．

そこで，四県を陶磁器文化で結んだ“やきもの文化街道”を創造して誘客を促進し，陶磁器産地の情報発信や交流等による陶磁器産業の活性化を図るために各県が連携して事業に取り組んだ．

当事業の開始時である平成１２年度には，様々な分野の連携内容が検討された．しかし，平成１３年度からは，以下の８分野に絞り込み事業を実施した．

ａ．技術アドバイザー、講師リストの作成
ｂ．ホームページの開設とネット上の共同展覧会
ｃ．共同パンフレットの作成
ｄ．各県試験場等での窯業技術研修生の受入れ
ｅ．まちづくりワークショップの実施
ｆ．陶芸家志望者のジャンルを越えた作品展開催
ｇ．共同イベント（共同展示会と産地青年等交流会等）の開催
ｈ．児童生徒等の作品展の開催

ここでは，平成１３年度から平成１６年度にかけて，特に重点的に実施した「ｇ．共同イベント（共同展示会と産地青年等交流会等）の開催」について，平成１６年度に開催した三重県大会を中心に報告する．

２．共同イベント（共同展示会と産地青年等交流会等）の開催

２．１　平成１３年度《 滋賀県大会 》

【主催】福井・岐阜・三重・滋賀四県連携陶磁器産地交流会等推進協議会（平成 13～16 年度共通）
【日時】平成 13 年 10 月 27 日（土）～28 日（日）
（展示会は 10 月 20 日（土）～11 月 25 日（日））
【場所】※数字は内容における項目番号
（１・２・３・６）滋賀県立陶芸の森（信楽町）
（４）水口センチュリーホテル（水口町）
【参加者】約１００名
【内容】
１●講演会
講師：緒方 知行氏
テーマ：「いかにお客様のニーズを取り込むか」
２●分科会
①Ａグループ

*　窯業研究室応用技術グループ
**　窯業研究室

講師：荻野 克彦氏
テーマ：「他分野からみた焼き物」
②Ｂグループ
講師：鳥居 静夫氏
テーマ：「商売に成功する秘訣」
３●ワークショップ
テーマ：「どのようにして伝統を守るか」
講師：各県の伝統工芸士
４●交流会
５●産地見学会（信楽町内）
見学先：信楽伝統産業会館
　　信楽陶器協同組合陶土工場
　　宗陶園
　　信楽陶器商業組合資材センター
６●展示会
テーマ：「新世紀に生きる伝統の技」

２．２　平成１４年度《 岐阜県大会 》

【日時】平成 14 年 11 月 23 日（日）～24 日（日）
（展示会は 11 月 22 日（金）～25 日（日））
【場所】
（１・３・５）セラミックパークＭＩＮＯ（多治見市）
【参加者】１３３名
【内容】
１●施設見学
２●意見交換会
共通テーマ「やきもの産地活性化の方策をさぐる」
①　テーマ「創る（造る）」
場所：岐阜県陶磁資料館
講師：森田　直文氏
②　テーマ「商う（使う）」
場所：岐工連会館・美濃焼センター
講師：山田　節子氏
３●交流会
４●産地見学会（多治見市内）
見学先：ヤマカ陶料株式会社
　　岐阜県セラミックス技術研究所
　　市之倉さかづき美術館
５●展示会
テーマ：「伝統と革新～新たなる挑戦～」
※「ＯＲＩＶＥＸ２００２」内に展示

２．３　平成１５年度《 福井県大会 》

【日時】平成 15 年 10 月 25 日（土）～26 日（日）
（展示会は 10 月 16 日（木）～26 日（日））
【場所】
（１・３・５・７）越前陶芸村（宮崎村）
（４）悠久ロマンの杜　朋楽の里（織田町）
【参加者】１０２名
【内容】
１●講演会
テーマ：「４県焼き物のつながりについて」
講師：福井県陶芸館　田中次長
２●意見交換会
場所：樹香苑（①②③）
　　越前陶芸村文化交流会館（④）
　　福井県窯業指導所（⑤）
共通テーマ：
「若手が主役となってとことん語り合う」
～未来の産地プロデューサーとして，産地をどうしたいか！～
①　作り手グループ１
　（事業規模として，個人作家レベル中心）
アドバイザー：田尻　誠氏
②　作り手グループ２
　（事業規模として，家内工業レベル中心）
アドバイザー：武田　孝三氏
③　作り手グループ３
　（事業規模として，中小企業レベル中心）
アドバイザー：佐藤　裕見氏
④　売り手グループ（商業組合関係者）
⑤　行政・組合グループ
　（行政担当者，組合事務局など）
３●交流会
４●夜学塾
５●講演会
テーマ：「自社の経営戦略について」
講師：藤永　賢一氏
６●産地見学会
見学先：宮崎村登り窯・共同陶房
　　織田町文化歴史資料館
７●展示会
テーマ：「時を刻む伝統の技」～過去・現代・そして未来へ～

２．４　平成１６年度《 三重県大会 》

【日時】平成 16 年 10 月 23 日（土）～24 日（日）

（展示会は 10 月 18 日（月）～24 日（日））
【場所】
（１・２）阿山ふるさとの森会館（阿山町）
（３・４）モクモク手づくりファーム（阿山町）
【参加者】８１名
【内容】
１●パネルディスカッション
テーマ：「陶磁器産地のやきものまつりを考える」
内容：菅原氏の事前調査による各産地のやきものまつりの資料が配付された上で，それらの開催関係者（パネラー）から，その現状と展望についての話があり，会場の参加者と菅原氏も加わって議論がなされた．パネラーからの「やきものまつりをきっかけに継続して足を運んでもらうためには，“食”が大切である」という共通した意見に対して，菅原氏から「箱ものに頼らない．そこにしかない歴史・風土・人を味わっていただくことを忘れないように」とのアドバイスがあった．
コーディネーター：菅原　由美子氏
パネラー：司辻　光男氏（越前焼）
村瀬　弘一氏・林　雅弘氏（美濃焼）
長谷川　善文氏（信楽焼）
山口　典宏氏（萬古焼）
宮本　俊氏（伊賀焼）

＜パネルディスカッション＞

２●特別講演
テーマ：地域おこしケーススタディー「モクモク手づくりファームのこと」
講師：木村　修氏
（モクモク手づくりファーム代表社長理事）
内容：創業１６年のモクモク手づくりファームの企業的農業経営についての話を頂いた．キーワードは，“学校(学習)”，“付加価値”，“ヨーロッパ”，“スローフード”，“体験”，“提案”であった．

＜特別講演＞

３●企画展示解説
テーマ：「日根野作三の仕事」
話し手：日根野　達三氏（作三氏のご子息）
山本　雅靖氏（上野市教育委員会）
聞き手：北川　幸治（三重県窯業研究室長）
内容：学芸員の山本氏には「戦後日本の陶磁器デザインの８０％は日根野さんが作った」と陶芸家の浜田庄司氏に言わしめた日根野氏の功績について，そして達三氏には日根野邸での様々な文化人との交流とその様子についての話を頂いた．

＜企画展示解説＞

４●交流会
モクモク手づくりファームの協力により，ｐａｐａビアレストラン内のバイキングに「四県郷土料理コーナー」が設けられ，各産地提供の大皿・大鉢にそれぞれの郷土料理が盛られて提供された．

＜四県５陶磁器産地の器＆郷土料理コーナー＞

５●展示会

◎共同展示

四県５陶磁器産地（越前焼・美濃焼・伊賀焼・萬古焼・信楽焼）がその個性あふれるやきものを展示してＰＲした.

＜越前焼（福井県）＞

＜美濃焼（岐阜県）＞

＜伊賀焼（三重県）＞

＜萬古焼（三重県）＞

＜信楽焼（滋賀県）＞

◎企画展示

テーマ:「日根野作三とその仲間たち展～２０ｃｙ後半の日本陶磁器クラフトデザイン～」

内容：陶磁器デザイナーの先駆者・日根野作三氏の指導者としての功績と，親交を結んでいた仲間たちの作品から，２０世紀後半の日本陶磁器クラフトデザインの系譜をたどった.

協力：日根野　達三氏，稲垣　太津男氏，上野市

教育委員会，滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場

＜企画展示＞

６●産地見学会

見学先:伊賀焼伝統産業会館,長谷製陶株式会社,やまほんギャラリー，香山窯，西沖窯，定八窯

＜産地見学会＞

＜産地見学会＞

３．まとめ

若手後継者が多数を占める参加者からは,「これまで訪れたことのない他産地の見学ができた」,「意見交換会（分科会）で他産地の状況がよく分かった」,「交流会では日頃接点のない人と新しい出会いがあり，違った角度から物を見ることができてよかった」等の好評が多数あり，当事業の目的が達成できた一方で,「現場の身になった話が聞きたい」,「零細企業では無理な話だった」等の不評もあった．今後，イベントを開催する際の参考にしたい．

海外からの陶磁器製品の輸入量が増加の一途をたどっている昨今,国内の陶磁器産地が連携して,技術力，デザイン・企画力の向上，海外への販路拡大，後継者の育成等を行っていくことは，今後さらに重要になってくると考えられる．

そのような状況下で公設試験研究機関の役割は,行政と共に産地と産地とを結ぶパイプ役として連携をコーディネートすることであり，今後，その必要性が大きくなるだろう．

＜付記＞

◎日根野作三氏（1907-1984）について

三重県阿山郡新居村（現, 上野市西高倉）生まれ．東京高等工芸学校工芸図案科付属工芸彫刻部（現千葉大学工学部）卒業．戦前に京都国立陶磁器試験場などで陶磁器関係の多くの人々と親交を結び,経験を積み，戦後は一貫してフリーの陶磁器デザイナーとしての道を歩む．その活動の中で多くの陶磁器のデザインに関与するとともに，京都・滋賀・三重・愛知・岐阜などの各地域を中心に後進の育成に尽力し,指導者として大きな足跡を残す．